

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202915		
法人名	有限会社 ウエルコ		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目5番22号		
自己評価作成日	平成23年4月7日	評価結果市町村受理日	平成23年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、ご入居者様に敬意を払い、いつまでもその方の持っている「パーソナリティ」「アイデンティティ」を大切にしながら接して、サービスケアに望むことを大切にしています。介護する側、介護される側に分かれるのではなく、生活意欲を引き出しながら、そしてひとときでも「笑顔」を見出しながら、一緒に時を過ごすようなライフパートナーという関係でありたい...と日々スタッフで切磋琢磨しております。私たちのホームは、札幌市北区で一番最後にできたグループホームです。5年が経過してまだまだ未熟な点が多いのですが、小規模ですが小回りができ、柔軟性のある行動力が得意としております。周辺には緑が少ないのですが、行事やレクリエーション、日頃の外出支援を多くするなどしています。今後はもっともっと皆様に満足していただけるよう日々精進をしていくように努めていく次第です。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202915&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年6月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の代表者が、高齢者が快適に安心して過ごせる場を提供したいとの思いで「グループホーム かがやき」を開設し、駅や商店、コミュニティセンターが近いなどの環境に位置している。運営者は各ユニット会議に出席し、運営に関する職員意見の反映に努めるなど就業環境を整えつつ安定した運営を目指し力を注いでいる。職員間で作成したユニット独自のケア理念は困難事例や支援での拠り所として掲げられ、また、利用者の思いや意向の把握では、些細な事柄も職員間で情報を共有して、機会を捉えたり場面作りを行いながら利用者の満足や安心に繋がっている。読書好きな場合は図書館に出かけたり、利用開始前の馴染みのお蕎麦屋さんで懐かしい味を堪能したり、利用開始後も以前の暮らしが継続できるよう、希望を尊重する個別支援に努めている。台所で担いたい仕事が混み合う場合などは他者との関係性に配慮して、既存の食器棚に台車を取り付けダイニングで作業できるよう環境に工夫も凝らし、役割として担ってもらいながら自信の回復に結び付けている。外出支援では冬場も外出する機会を設けたり、一年を通じて戸外で楽しむ企画も多い。楽器や演劇のボランティアを招いたり、近隣グループホームと行事を通じた相互交流、保育園・幼稚園児が訪れるなど、利用者の豊かな生活の実現に向けて努力されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議では、地域密着型サービスについてみんなで話し合い、地域とのかかわりを活かしたケアを実践できるよう取り組んでいる。	法人の理念に地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を盛り込み、昨年度当初には、運営理念を具体化した内容のケア理念をユニット毎に掲げている。職員は理念の持つ意義を意識しながら実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物などに出掛けたり、町内会に加入して町内会行事に参加したりしている。	町内会などの祭典への参加やコミュニティセンターのリサイクル活動に協力するなど、情報を収集して接点を持っている。ボランティアの受け入れの他、保育園・幼稚園児が訪れたり、近隣グループホームと相互交流を行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献への具体的な取組みには至っていないが、見学や介護についての相談があり対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は年5回の開催し、町内会班長が参加された。毎回活動内容を主体して、参加者からさまざまな話題が検討されている。少しずつではあるが、ひとつひとつ改善にむけ取り組んでいる。	奇数月での定期的開催を推進し、改めて会議の意義を説明したり、行事などをスライドショーで紹介するなどの工夫をし、多くの意見を出してもらえるようにしている。議事録は今後の運営や会議に反映させやすいようにしている。	家族に会議の開催案内や議事録を送付することも検討され、会議の意義や目的の共有がより図られ、今後の会議運営が更に発展されることを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、電話やメールではあるがいろいろ相談させていただいている。地域包括支援センターや生活保護担当職員とは常日頃連絡し合い、連携を深めている。	市や区の担当者から法規や書類関係で指導や助言を仰いだり、担当者からの情報や連絡事項を職員内で回覧し共有を図っている。生活保護担当者が来訪した際は普段の様子などを報告している。運営推進会議では消防・地域包括担当者との協力関係が構築されている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの協力と見守りの徹底にて、日中はユニット出入り口の施錠を行っていない。センサーも一時的には使用したが、現在は減っている。「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の掲示し、徹底理解を図っている。	支援の事例や実際を利用者の現状を示しながらユニット会議(カンファレンス)で提議し、適切な支援内容を含めて検討を行い、理解や浸透を進めている。利用者の状態変化に伴うリスクに関しては、家族に予兆や今後の可能性を伝え、支援内容を相談しているケースもある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会に出席し研修報告書を作成し、資料を回覧し会議でも話し理解を深め、虐待防止に努めている。また入社時研修時に学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方が成年後見制度や地域権利擁護を活用している方がいるので、新しく入社した職員に説明し、資料なども配布している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて丁寧に説明している。重度化や看取りについてや、法改正や物価高騰などによる利用料が増加する場合には、必ず書類にて同意を得るようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時は職員が必ず部屋に伺って一声かけたり、状況を報告するなどしている。電話も含め、ケアの要望について出された意見は、すぐミーティング等で話し合い、反映させている。	外出や食事、睡眠に関することなど、利用者からの要望はその都度ケース記録に書き留め、朝夕のミーティングで情報を共有し支援に反映させたり、機会を捉えて意向に沿えるようにしている。家族からの意見などを貴重なものと受け止め反映している。	昨年5月まで発行していた事業所便りを再開する意向を示しているため、日常の様子や予定などを便りを通じて発信し、より多くの意見や要望を出してもらえるよう取り組みに期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は毎回会議・ホーム内研修に参加し、職員の要望や意見を聞く様に心がけている。	代表者は、朝・晩、事業所を訪れ利用者との触れ合いや職員から業務の話の聞いたりなどコミュニケーションを図っており、職員からは畑やIHヒーターの整備について意見が出され、運営に反映させている。また、職員と面談して意見を述べやすいような環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場にきており、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。また、職員の資格取得や外部研修参加には積極的な姿勢をみせている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員には、育成担当職員が一定期間つくようにしている。個別職員のスキルに応じて、管理者は指導したり、外部研修受講を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区の連絡会ではスタッフ研修を設けたり、近隣グループホームとの訪問行事などで情報交換等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった際には、事前に必ず面談して本人の意向の確認を行っている。そして不安や要望を聞き入れ信頼関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からは、これまでの経過や苦労に家族関係、そしてこれからの心配ごとを含め、ゆっくり聴くようにしている。またその時に最善のニーズを把握するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、まず早急か適切かどうかを判断し、必要ならば、他サービスや制度、相談窓口をご紹介します。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護者」ではなく「介護パートナー」という関係を大切に、「喜怒哀楽」の生活を共に歩むような関係づくりに日々配慮している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の思いを汲み取り、職員が情報交換や調整役となって、ご本人と一緒に支援していく協力関係を築いていくようサポートしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居されてからも馴染みの病院やスーパーに送迎をしたり、お墓参り等支援を行っている。また、お世話になったケアマネージャーに会う機会も設けたりしている。	利用開始前によく行っていた蕎麦屋さんへ入居後も個別の外出を兼ねて食べに出かけている。利用者本人が馴染みの知人・友人に電話をしたり、訪ねて来るケースもあり、一人ひとりの生活習慣を尊重しながら継続的な交流ができるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重しながらも、日々のミーティングで心身状態の把握に努め、お茶やおやつ、体操の時間は職員も一緒に会話を持つようにして、調整を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が修了した方でも介護保険の相談に応じたり、家族の店を利用したりしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや意向を確認している。ケアの状況をご家族に報告・相談にのっていただき、その意向を尊重しながら、利用者本意のサービスを日々検討、支援を行っている。	職員は利用者自身が表出した言動や家族からの情報も得ながら、日々本人の思いに感心を払っている。把握した内容はチーム全体で検討や確認ができるようケース記録に記して、適宜支援に結び付けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からそれまでの生活歴など傾聴し、家族からも状況を聞きながら把握するよう努めている。入所してからも、言動やライフスタイルから、継続してご本人の理解に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のミーティング、月1回の会議ではご本人の「できること」「できそうなこと」を話し合っている。例えできなくても、「生涯発達」の理念を忘れず、再検討している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活の中や、家族とのかかわりの中で暮らしの意向やケアサービスの方向性を決定している。また、身体面だけでなく、生活意欲や社会交流などを重視したケアをチームで常に話し合っている。	ケースカンファレンスで短期目標のアセスメント・モニタリングを実施し、利用者の状態像をチーム全体で確認している。医療関係者を交えたサービス担当者会議にて本人の目標や支援内容、本人・家族の意向をまとめ、実状に即した新たな計画を作成している。	ケアマネジメントにおいて計画との連動性あるケース記録方式に移行中であり、今後両ユニット間で書式を統一し把握しやすい内容となるよう目標を示しているため、その実現に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	最近ケース記録ほ書式を変更し、食事・水分・排泄に連動した、「暮らしの様子や言葉」「ケアの実践」の記録を行い、職員間で情報共有しやすいように試行中である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて、出来ることは対応し、緊急な受診・送迎等を柔軟に行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1階のコンビニ利用は多く、また地域の公民館、保育園や幼稚園の来訪により余暇活動を楽しんだりしている。避難訓練や救命救急講習、運営推進会議では消防と連携をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人やご家族の要望にて主治医を選択できるようにしており、可能なかぎり通院支を継続した治療ができるようにしている。	これまでのかかりつけ医や希望する医療機関への受診が可能で、協力医療機関による往診体制を整えている。家族などと通院方法を取り決めているが、都度柔軟に対応している。受診内容を医療連携記録に個別に時系列で記し把握しやすいよう整理されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師に訪問してもらい体調を伝え、日常の健康管理を相談・助言・対応を行っている。変化があった時にはその都度連絡をとり支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの本人の生活支援状況など情報を医療機関に提供し、スムーズに治療できるよう配慮している。入院中は、職員が定期的に見舞うようにしたり、早期退院に向けて病院関係者や家族とも相談している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期のあり方についての指針を説明している。その後は都度、本人・家族の意向を確認し、事業所として出来ることを検討し、見極め必要時主治医や看護師と連携を取りながらチームで支援していけるよう努めて行く。	重度化した場合の対応に係る指針書とそれらに係る要望書・看取り介護についての同意書を家族などに説明して文書を渡し、医師が判断した際に改めて関係者間で合意を得る体制である。医療機関リストや利用者医療体制表などを整備し、体制強化に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを備えたり、利用者に予想得る症状については随時プリント配布したり、年に1回は救急救命講習を消防に依頼して備えをしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、消防署指導のもとに、通報避難訓練を年3回実施した。東北大地震後は、運営推進会議にて消防職員にきていただき助言をいただいたりしている。今後は地震発生についてのマニュアルの作成が必要である。	消防署の協力の下、夜間・火災を想定した避難訓練を地域商店の参加協力を得て実施し、訓練結果の講評はもとより、運営推進会議で今後の課題などについて消防署員から意見をj得ている。昨年暮れにスプリンクラーが完備され、災害時での協力者の役割を明確にしている。災害備蓄品では飲料水が確保されている。	火災以外の想定される災害についてシミュレーションを実施したり、マニュアルを整備する必要性を示しているjので、災害備蓄品の充足も含めて更なる災害対策の強化に期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩」として、敬意を払う「言葉づかい」を常に意識することを基本として、会話の内容や音量、場所には周囲に配慮している。職員は入社時に個人情報情報の取り扱いに対して指導している。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」付けし、敬意を持って接している。気になる言葉遣いがあればその場で注意している。記録類はスタッフペースに安全に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な質問に置き換えたり、自己決定しやすい言葉かけに言い直したり、手をにぎりながら声掛けしたり、静かなで雑音がないところで再び話すようにしたり、工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の様子を見ながら本人の希望を聞き、相談しながら過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって訪問理美容や外出支援して床屋や理美容の支援を行っている。また、外出の際には一緒に服を選んだり、お化粧の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ卓を囲んで同じものを楽しく食べるよう努めている。利用者関係に難しい場面もあるが、皿洗いや食器・テーブル拭き、食器収納など手伝っていただいている。時々外出や出前など「食」を楽しむ機会であることを演出をしている。	利用者の能力に応じておかずの盛り付けや食器洗いなどを手伝ってもらっている。ミニ菜園で採れた野菜をメニューに加えるなど彩りの豊富な食事が提供されており、利用者と職員が楽しく会話しながら同じ食事を摂っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を基本に提供し、ひとり一人の食事・水分摂取量をチェックしている。他に、家族からの定期的な嗜好品や要望、主治医からの栄養補助食品など、柔軟に個別対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、指導のもと毎食後に口腔ケアを行っている。出来ない利用者には介助をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心や羞恥心に配慮しながら、さりげなく観察し、表情やしづきが感じられた時には随時案内を行っている。	介護記録の中で水分摂取や排泄を記録しパターンを把握して、タイミング良く誘導している。できるだけオムツを使わず、使う場合は肌触りの良いものを使う方針としている。適切な誘導により布パンツ使用に改善した例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や青汁など提供したり、AMにはみんなで運動を行っている。その他、個別の散歩などで気分転換を促し快適な排便に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意に沿わないと、午後や後日に変更するなどしている。また、スムーズに入浴できるよう前もってご本人に入浴日・入浴時間を伝えるなどしている。	利用者の希望に応じて週2回は入浴できるように支援している。午前、午後とも入浴可能であり、湯加減を本人の希望に合わせて調整している。拒否がある場合は時間や担当者を代えて誘うなど工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が本当は休息や睡眠を要求しているが、うまく表出できない場合もあるので、その心理を察知して声掛けや誘導を行うようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で服薬をされた確認のサインを記入し、薬の効能・副作用を記入した処方箋を一緒に提示して、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑巾縫いや手すり拭き、タオルがけなど、利用者の役割を發揮する場面を提供している。これからももっと「役割」や「楽しみごと」を創出していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には散歩や買物へ外出支援を行っている。遠方や個別の外出には、家族の協力や承諾を得て、積極的に行っている。	日常の個別の散歩や外出を支援しており、普段からスーパーやコンビニ、コミュニティセンターなどに出かけている。外出行事では、紅葉狩りや外食ツアー、水族館や大通公園へのドライブがある。年に1～2回の2ユニット合同の外出行事もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭所持や管理ができる方には、可能な限り自身で所持・運用していただけるよう支援している。入居時にご家族が預かってほしいという要望も多い。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に連絡したいと申し出があった時には、電話をお貸ししたり、代行で連絡を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・玄関の飾りを季節に合わせ、月毎に利用者を作り飾ったり、手づくりカレンダーや献立表など、大きくて生活感のあるものを飾っている。	共用空間は広く清潔で、バリアフリーが行き届いている。居間と食堂には南向きの大きな窓があり、日当たりが良い。壁には行事での利用者の写真や手作りのカレンダー、献立表などが飾られ、親しみやすい雰囲気を作っている。観葉植物や本なども置かれ、家庭的で快適に過ごせる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングは見渡しがいいが、個々の空間演出には工夫の余地がある。職員の細かい配慮で、食堂席、ソファ、廊下椅子、自室へ誘導するなどしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や物を置かれている。本人・家族の希望に合わせて使い易いように配置し、居心地よく過ごすことが出来るように支援している。	居室は利用者が自由にベッドやたんす、テレビ、家族の写真など馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にもカレンダー、時計など利用者が自由に飾り付けすることができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	個別に手すりを設置したり、食堂椅子やその座布団をつけたり、ダンスを変更したりなどして、安全・安心した生活への自立支援につながる環境整備を都度検討・実施している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202915		
法人名	有限会社 ウエルコ		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目5番22号		
自己評価作成日	平成23年4月7日	評価結果市町村受理日	平成23年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット にじ」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202915&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年6月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月一回行っているユニット会議で、理念を意識した話し合いをし、利用者の具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどの行事に利用者に参加したり、近くの保育園にボランティアに来て頂いて交流を持つよう心掛けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献への具体的な取組みには至っていないが、見学や介護についての相談があり対応している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し事業所の活動や、職員・利用者の状況などを報告している。検討事項も家族と話し合いサービス向上のために活かせるよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で主催する研修や会議には積極的に参加し情報を得ている。市・区の連絡は迅速に職員間で回覧している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に出席したり、カンファレンスなどで話し合い理解できるようにしている。利用者への支援内容も検討している。夜間は玄関・ユニット入口に施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会に出席し研修報告書を作成し、資料を回覧し会議でも話し理解を深め、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方が成年後見制度や地域権利擁護を活用している方がいるので、新しく入社した職員に説明し、資料なども配布している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が事前に面談し、契約の説明を行っている。退去時の場合も料金などの説明を行い同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時に何でも言ってもらえる様に常にかぎなく話しやすい雰囲気づくりを心がけている。意見・要望はミーティングで話し合い反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の要望や意見を聞く様に心がけ会議の時に議論し反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日現場に来て、利用者に話しかけて下さる。職員の悩みごとやストレスにも気を配っている。また職員の資格取得や外部研修参加に積極的な姿勢がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量を活かせる労働環境づくりをしている。資格取得に向けた支援をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区の連絡会への参加や、近隣グループホームとの訪問行事などで情報交換等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面談し生活状態を把握するよう努め、不安なことや要望を傾聴し利用者に合わせた居室環境を整えるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と一緒にホーム内・居室等を見学して頂き、不安な事やこれまでの経緯など傾聴し、信頼づくりにつとめる。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>早急な対応が必要な支援は、職員全員で周知し対応を行っている。利用者の状況等を把握し、サービス内容をミーティングで考え対応に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の思いを大切に、出来ることを続けて行ける喜びが持てる様に、お互いに協力しながら暮らしを共にする関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>サービス支援内容や、日頃の状態をこまめに報告・相談し、家族と共に利用者を支援していける関係を築けるよう努力している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの場所や毎年、お盆のお墓参りなど一人ひとりの生活習慣を尊重し外出できるよう支援に努めている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々に話しを聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場づくりをするなど環境を整え見守り、調整が必要な時は職員がその都度関わる様になっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関わりを必要とする家族の方には継続的に付き合いができるよう連絡を取り合い支援したい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや意向を確認している。意思疎通が困難な方には家族より聞き取りをし利用者本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からそれまでの生活歴など傾聴し、家族からも状況を聞きながらサービス利用経過を把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切に、小さな動作や行動から心身状況を感じとり、申し送り時に様子を伝えて把握するようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、職員間で共用できるよう記録する。職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の暮らしの様子や言葉・状態変化はケース記録に記載し、申し送りで職員同士情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて出来ることは対応し、緊急な受診・送迎等行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園やボランティアの来訪により余暇活動を楽しんだりしている。消防の避難訓練・救命救急の講習を受けている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族から希望を聞き、かかりつけ医・往診医を選択して頂き、適切な医療が安心して受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師に訪問してもらい体調を伝え、日常の健康管理を相談・助言・対応を行っている。変化があった時にはその都度連絡をとり支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援状況など情報を医療機関に提供し、職員が定期的に見舞うようにしている。早期退院に向けて病院関係者や家族とも相談している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、本人・家族の意向を考慮し、事業所として出来ることを検討し、見極め必要時主治医や看護師と連携を取りながらチームで支援していけるよう努めて行く。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを備えたり、消防署と連携をとり講習を受け、対応できるように備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと避難訓練や消火訓練を行っている。火災時は地域の方々にも協力をお願い出来るよう働きかけている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。意思表示が困難な方は表情を見のがさないように注意し支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の様子を見ながら本人の希望を聞き、相談しながら過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって訪問理美容にてカット等を行っている。外出の際は一緒に服を選んだり、お化粧の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえを手伝って頂いたり、下膳などの後片付けと一緒にしています。おやつや食事も利用者に聞き、好みの物に変更したりと楽しめるよう支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は健康チェック表に記入し把握しています。摂取量が減ってきている利用者の方には嗜好品や食べやすい物でいろいろ工夫しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って頂き、出来ない利用者には介助をしています。口腔内に異常が見られたり訴えがある時には訪問歯科往診で診て頂いています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子を察知しトイレ誘導を行い、居室内にポータブルトイレを設置し、夜間など利用者が安心して気持ちよく排泄できるよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し便秘を予防するため、毎日ラジオ体操と水分補給や繊維質の多い食材を提供できるよう工夫を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は決まっていますが、その日の体調や利用者の希望に合わせて入浴の支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調や表情・希望等を配慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で服薬をされた確認のサインを記入し、薬の効能・副作用を記入した処方箋と一緒に提示しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、できそうな仕事を頼み役割を持って頂いて、続けられるよう支援し感謝の言葉を伝えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や体調を考慮し、お花を見に散歩に出かけたり、近くのスーパーやコンビニへ買物に出かけたり支援している。お弁当を持って公園にも出かけている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方からおこずかいとしてホームでお預かりしていますが、必要時に使用でき、職員同行での買物へ行く支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に連絡したいと申し出があった時には、電話をお貸ししたり、代行で連絡を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・玄関の飾りを季節に合わせ、月毎に利用者として作り飾っています。玄関・階段等にも花など飾って楽しめる工夫をしています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中では一人になれる場所はないが、ソファやダイニングテーブル・椅子の配置を工夫し、思いおもしろい場で会話を楽しめる環境作りをしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や物を置かれている。本人・家族の希望に合わせて使い易いように配置し、居心地よく過ごすことが出来るように支援している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表札をつけ分かりやすいように工夫している。車椅子・歩行器等でも安全に生活が送れるように配慮しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム かがやき

作成日：平成 23年 6月 15日

市町村受理日：平成 23年 6月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	昨年5月まで発行していた事業所便りが現在発行されておらず、面会に行くことがなかなか難しい家族への情報提供不足や、家族からの意見の反映に生かされていない部分があるのでは…。	定期的な発刊の再開し、情報の提供による安心感や家族からの要望や意見を取り入れやすくしていく。	毎月コンスタントに発行することを目標するために、ページ数を減らし、各ユニットやホーム全体の様子、各入居者様の近況報告を一部盛り込むなどして、便り作成を分担作業していく。(8月開始)	H23.6.15 ~H23. 12.31
2	35	火災発生時のマニュアルや訓練、設備準備点検を行っているが、震災時のマニュアルや訓練、災害備蓄品が不十分である。	火災以外の想定される災害についてのシミュレーションを実施したり、マニュアルを整備したり、災害備蓄品の充足を行う。	運営推進会議での消防署の講話(5月実施済み)や研修等で必要情報を整理し、マニュアルを作成したり、発生時の対応を掲示したり、備蓄品の充足を強化していく。	H23.6.15 ~H23.8. 31
3	4	運営推進会議の意義や目的が、参加者家族以外にも共有がより図られ、今後の会議運営の更なる発展が望まれる部分が残っている。	事業所や参加メンバー以外にも、運営推進会議の開催や実績をより多く共有されて、今後もっと会議が活性化されることを目標とする。	家族面会時に面会簿と一緒に議事録の回覧を勧めたり、ホーム便りに、運営推進会議のことや議事録を、家族様のご負担にならない程度に紹介していくことから開始する。	H23.6.15 ~H23. 12.31
4	26	現在、ケース記録(介護記録)のみがケアプランに連動した記録になるよう試行錯誤中であるため、ユニット間で統一されていない。	ケアマネジメントにおいて、ケース記録や個別ファイルの整理など、今後両ユニット間で統一して把握しやすいようにする。	現在の試行開始が5月からだったので、会議や研修にて改良を重ね、9月から両ユニットで統一するようにしたい。	H23.6.15 ~H24.5. 31
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。